



純
浩
十
卷

純浩十卷



序

田舎のり惜業の者おと推し
 小答と題するものありしは
 人のあつては能くあつては
 是を以て備ふるものありし
 を以て備ふるものありし
 書を以て書林壇を行くものあり
 是を以て新のものをあつて
 是を以て新のものをあつて

是を以て新のものをあつて
 是を以て新のものをあつて

卯柱 柳本三柱
ヲ造り 卯柱モ同
進フ卯柱モ同
タクイナリ

白 七後ヲ供
敷後水巴ノ巻

沸 薪法 氏弟ヲ
カケカケノ
カケカケノ

縣 古ハ徳公守
ヲ名テ友位ヲ

今ハ徳公 後
沸 徳法 林裏ニテ
ヲコナハル

踏 今ヨキ者ヲ
撰全後ヲ汎公ニ男
女ありナリ 加
の強ハ冠子子
ノ花ヲ身ナリ

厄神 十のり
ハ物タ 十のり
ハ物タ 十のり
ハ物タ 十のり

古式ハ及ニシテ
モ季ノ名目ニ係
テ四子ノ善者ヲ
ナリニカ今式ハ
名目ニ及ニシテ
ニシテハハナレテ
友ナリ

裏白 昔少
松林 度ニ
温テ 懐帝ノ表
斗ニ 名ニヨリ今式
テ加 係トスル
大元 師 活者
多ニ 玉ヲ内出
兼入 法ヲ云

鞍馬山人 法人ニ
火キ 石ヲウル 眞
アル 買方
重宿 年五 加
いこ あり 楳島西ノ宮 氏人
直衣 戸ヲ内出 云

常陸常 神
ニテ 思フ男ノ名
ヲ女 帯ニ虫付 風
ニム スフヲ 縁定云
吉田ノ 板 系人
松の 木ニ火 火アリ
坂ヲ 越テ 越
系ニ 系ナリ

彼 古式ニ
イヒテ 君ヲ
今式ハ 氏ニ
社ニ 社ニ
所ニ 社ニ
社ニ 社ニ

名ノ 係ナリ
陽 氏ニ
今式ハ 氏ニ
アリ 氏ニ

今式ハ 氏ニ
アリ 氏ニ

古式ニ
今式ハ 氏ニ
アリ 氏ニ

節 二月 如月 交 中
社 氏ニ 氏ニ

天 月 氏ニ 氏ニ

人 氏ニ 氏ニ

田 氏ニ 氏ニ

賊 氏ニ 氏ニ

系 氏ニ 氏ニ

信テ云
 信テ云
 八十八のむ、
 カノ子ノ宗ニアルヲ
 三至リテテ仕入テ
 モノナリシヲ
 鮎今式ニ鮎ハ若
 鮎今式ニ鮎ハ若
 八十二のむ
 篠ノ川ニ入ル
 他國モアリヤ未
 杖籒 杖籒ハ
 ムル條テ云

こころ自コガ 蠶飼 蠶子 蚕
 行 野合 曲 蠶
 糸 己日後 蠶糸 蠶糸
 糸のしき 蠶糸 蠶糸
 法ハナシヌ 蠶糸 蠶糸
 蠶法 蠶糸
 蠶糸 蠶糸
 人身 蠶糸
 蠶糸 蠶糸
 蠶糸 蠶糸
 蠶糸 蠶糸

己日後 湯武ニモ
 頂ナニテ 杖籒
 杖籒
 杖籒
 杖籒
 杖籒
 杖籒
 杖籒
 杖籒
 杖籒

隅田川 大糸 仰
 雄法 大糸 仰
 大糸 仰
 大糸 仰
 大糸 仰

大糸 仰
 大糸 仰
 大糸 仰
 大糸 仰
 大糸 仰

印子くくく
時をくくく

東之房の丸 師統
中必ニテ東之房ト
テ必同腹アリ且船
ノ名ハビク知悉ニ度
カニノ名ニシテ事
ニカフ
キテトウ

五日ナリ
川狩 古武ハエナシ
ト今武ハエナシニ用
ニハナシテハ新
凡婚 裕 子 ぬ
局 局 局

古武ハエナシトナシレ
今武ハエナシニモ新
モ古武ナリトナシ
新ノ古武ナリトナシ
モ新ニシレテハ新ナリ
トソ

○卯 夏 朱の 朱の
長壽 朱の

四月 卯月 卯月 中名 巳月

○天 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月

○人 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月

○財 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月

○子 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月

○下 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月

○卯 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月

○食 新茶 古茶 古茶 古茶 古茶

○新 新茶 古茶 古茶 古茶 古茶

○杜 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹

○茶 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹 牡丹

○馬 馬 馬 馬 馬 馬

○胡 胡 胡 胡 胡 胡

○新 新茶 新茶 新茶 新茶 新茶

○新 新茶 新茶 新茶 新茶 新茶

○新 新茶 新茶 新茶 新茶 新茶

一ハ 考るんんん
今之推考ハ
考るんんん

古武ハ新ニ字
ヲ以テ新ト名ト
ニナシレハ今武ハ
ニ及ハス新ニシレハ
新ナリ

古武ハ新ニ字
ヲ以テ新ト名ト
ニナシレハ今武ハ
ニ及ハス新ニシレハ
新ナリ

古武ハ新ニ字
ヲ以テ新ト名ト
ニナシレハ今武ハ
ニ及ハス新ニシレハ
新ナリ

志和子 志和子
長三寸葉子 間
生山モノ如

こくらふ 傷
赤云

苧 苧子 籬子 白丁子 夏門子

蓮の子 浮葉子 夏子 楊梅の子

ユキノシタ 志和子 志和子

木 木子 楊梅の子 楊梅の子

楊梅の子 楊梅の子 楊梅の子

夏子 新樹 夏子 夏子

山 山子 山子 山子

夏子 楊梅の子 楊梅の子

楊梅の子

けい子 柳皮

けい子 柳皮 柳皮
ヤヨリ 柳皮 柳皮
レハ 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮
テ 柳皮 柳皮
加 柳皮 柳皮

左式ニハ
各月ナケレバ

ノ 柳皮 柳皮
ノ 柳皮 柳皮
ノ 柳皮 柳皮

子 柳皮 柳皮
子 柳皮 柳皮

子 柳皮 柳皮
子 柳皮 柳皮

子 柳皮 柳皮
子 柳皮 柳皮

子 柳皮 柳皮
子 柳皮 柳皮

生 柳皮 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮 柳皮

柳皮 柳皮 柳皮 柳皮

如子ハ波テニナリ

トツ 如子ニ似たり

化ニ秋又田氣ニ
化スルトツ

精角 今ニ精角

▲ハ極ノ多クニあり

テ高ク見たりニツ

ルハナレト精角ニ

マカハノ氣ニキナレ

ニスト秋トニマナニ

ワレルトツ

白ニ重 西ニナリ

青ニ兼 西上ニ新

ス如レトカケル

孟夏ノ旬臣ニ汝ラ

賜フニ有ノホト云

後ノ人ニ 子ニル男

ノ夫ニト女漏ラカ

ツキ法スナシクナリ

中ニホセシラ今ニ女

御ニテ隔ヲウケル

マ子ビス

稲屋向系 七条由

小島田系

八津系 馬ノル

後河守ノリ

重ノ守心法流事

ナリ付日神樂出

美奈系 加茂

勅使アリあやひ

ヲ由子ニカサス盛兼

ニナル

子國子 鬼子母神

ニナル

志佐 弘法大師ノ

如レトカケル

宗 □ 系 龍ノ系 一ノ日 稻屋向系 初命

平河系 上ノ申 松尾系 中申 今ノ系 龍ノ系

山崎系 二ノ日 後ノ系 三ノ日 八津系 上

大津系 四ノ日 新田系 五ノ日 神系 七ノ日

権作系 八ノ日 志保系 九ノ日 藤原系 中

神尾系 伊勢系 清和系 地系 系 日守系 中申

吉田系 中子 安少系 中子 園白系 加茂系 中

高野系 練法系 上申

子國子 二ノ日 向ノ系 三ノ日 久世系 中子

お増系 天ノ系 日光系 十ノ日 常則系 志保系

美奈系 中ノ年 志保系 神法系 藤原系 中子

了ノ系

七増系 天ノ系

東門ノ下ニナル

塔ヲ云

西ノ系 神法

三日之日名ニ云

リ 柳ヲウツス八

ウ 柳ト云云ヨリ 柳

ヲ 柳ニテ云云又

美ニ包スキナリ
有りカコレハニハ
ノヨハキホラテ
トハカスルニ云
トハカスルニ云

年所云云 心ハ梅ニ
似テ又其ノコトク
美ニ旋テ度ニハ
テキサニ云ニハ
ニハク依テ以名
アリ
夕ニホニ如
梅麻 心梅ハ似々

リ依テ云カ
令瓜 梅ハ瓜系
胡瓜 瓜ハ瓜系
村云凡小瓜系
名アリ
右古陀瓜 系
替天瓜 和加田
瓜系 臣ニ系系
ヲ以テハ瓜系
礼ナリ依テ瓜系
家ニ有ルカ系
祥合イトテハ日
瓜系ヲ食ハ
テハ係上ナラニ

練之産 心瓜 灯 毛虫
俾 其俾 海丹丸

① 抄子 心瓜 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

蒲の粒 海丹丸 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

年所云云 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

夕瓜 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

梅麻 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系 瓜系

新田姫 秋色牙皮
 此神之
 櫛光 御流
 電ノ音ノ事ニ新
 氏十サニカ信ノ流
 後ニ包スニ
 系ノ系 女ノ事業
 ニタクニナラニトナ
 七巧ノ實 文字ノ
 如ク人ノ業ニタク
 ミナラニトコイカ
 志ノ
 新ノ櫛 古ノ櫛ニハ
 けられニアラスト云
 氏ハウ式ニハモリ三二

白左
 立忍今 星三ノ白
 之カケニヨリカ
 桂ノむ 古式ハモ事
 ▲説アレ庄今式ハ月ノ
 具名下ナシ秋ナリ
 四季ノ詞ヲ結フ時
 四季ノ月ニ用ユヘキ
 トリカ月モ星モ桂
 相ニモニ白去ナリ
 白ノ櫛 御流
 係ホラトト又ホ
 登云云ニ十六名氏
 良ホトアレハ名月
 夜ニ限ハホナリ
 上法 月ノ初八日
 去下法 八月ノ末
 廿三日ヨリユノ云
 序ノハ 珍御公田
 テ八十月十日人ノ
 家ノ事内ナリト入

節

秋

白左 吳天

金商 的景

初八

七月

文月 女布月

夷月 初八

十

立林

今第の林

七夕

節ノ白中元

林の事

冬ノ

新涼

新田姫ニ百十日

天

初涼

新涼

初涼

初涼

次下

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

人

判

判

判

判

節

節

節

節

節

節

節

節

節

節

賊

賊

賊

賊

賊

火

火

火

火

火

食

食

食

食

食

唐又ハ姫姫ナトヲ
 見ル者ハ不ニモ
 コリシトシ
 新茶湯 朝也
 ▲茶湯ノ傳言リ秋
 トナセルハ今式ナリ
 角カ 喉説
 横廷ハスイヲ君ヲ
 小元使トテ秋ナヨ
 リ角カヲ秋ト定メ
 タルナリ 俗ト角カ
 ハ四季ニアレハ今ナ
 レテハ新ニモナナカ
 傳ニ依ニ位スヘ
 掛乞古式ハ冬ナレト
 ▲今式ハ秋トナリナ
 一ウナレテハ新トス
 純ニ完今式極新決
 ▲ニテ 秋トナレテ
 トイヒテテホモモ
 雑毛用ニヘトナリ

夏心多 葉ハ女帝
 ノ花コ似テモ白クハ
 葉ハヨテテフ自ハ
 葉香ニ似タリナ
 蘭ノ山谷初テナ
 葉ナリテテ蘭トス
 和ホクナリカ今云
 蘭ハ花トナリ
 葉モ ツル葉ニ
 花ハ白クナレ
 葉叶中 ヨトキリ
 葉ノコナリ
 新葉中 葉ハ右
 昔ノ如クモハ
 葉ナリ
 曼珠沙花 花ハ時
 葉ナレモハ葉
 俗死人志ト云又捨
 さむトモ
 花トモ 畠トモ

うらう 懐いろう
 子、
 葉 新葉多、おむりし無度多
 男らりし 萩萩葉多、芭蕉破
 小車 葉共此 ねまのこころ
 指授 あつし指授
 朽ふまゝ 角カ多 葉叶ト多
 久大ト 葉叶ト多
 知るまゝ 葉金まゝ 車も子
 曼珠沙花めきき 新葉伝多
 とらし 葉のうまき とも とも とも
 ともとのと ともとのと ともとのと

葉ハ多 葉ハ女帝
 ノ花コ似テモ白クハ
 葉ハヨテテフ自ハ
 葉香ニ似タリナ
 蘭ノ山谷初テナ
 葉ナリテテ蘭トス
 和ホクナリカ今云
 蘭ハ花トナリ
 葉モ ツル葉ニ
 花ハ白クナレ
 葉叶中 ヨトキリ
 葉ノコナリ
 新葉中 葉ハ右
 昔ノ如クモハ
 葉ナリ
 曼珠沙花 花ハ時
 葉ナレモハ葉
 俗死人志ト云又捨
 さむトモ
 花トモ 畠トモ

生 □ 新葉 葉多、おむりし無度多
 男らりし 萩萩葉多、芭蕉破
 小車 葉共此 ねまのこころ
 指授 あつし指授
 朽ふまゝ 角カ多 葉叶ト多
 久大ト 葉叶ト多
 知るまゝ 葉金まゝ 車も子
 曼珠沙花めきき 新葉伝多
 とらし 葉のうまき とも とも とも
 ともとのと ともとのと ともとのと

古式ハ生ナレモ今

式ハ成セ

恒立 子安年中

二条系

三河系

八幡系

然レモ

ナラシムヘカ

ヨリテ

スルヲ云

樹出ノ

ナリ

カタルヲ云

ハニテ

イニ名ハ古式ニモ云

スト云

各目トソ

榊 蛭

トニテ同所

本招

モトニ

ナク

者ノ

ウクト

云及

入

み

小

カ

カ

カ

小亭
コノ亭

舟、舟、繩、糸、糸、糸

中、中、中、中、中、中

糸、糸、糸、糸、糸、糸

勝、勝、勝、勝、勝、勝

従、従、従、従、従、従

糸、糸、糸、糸、糸、糸

糸、糸、糸、糸、糸、糸

又降、降、降、降、降、降

干、干、干、干、干、干

盆、盆、盆、盆、盆、盆

糸、糸、糸、糸、糸、糸

三、三、三、三、三、三

信、信、信、信、信、信

信、信、信、信、信、信

信、信、信、信、信、信

供...
云...
イ...

以...
七...
五...
ト...

引板...
奥...
流...
ア...

月...
全...
結...
名...

苗...
ヒ...
夏...

①

八月 月... 南... 月...

②

田... 彼... 祈...

③

初月... 結...

④

新月... 中...

⑤

伏... 初...

⑥

流... 祝...

⑦

人... 草... 出...

⑧

賊... 引...

⑨

案... 新...

⑩

食... 新...

⑪

美... 結...

⑫

乃... 祈...

⑬

加... 葛...

⑭

鴨... 種...

⑮

苗... 草...

⑯

鴨... 種...

兼之 意物ノ
名来ナリ
九日 茶黄袋
カケテ山ニ
下リ 豊長屋
カ敷ナリ
星月お 秋ノ
サテテ星ノ光キラメ
キテ 响ラカナルヲ云
細代キ 氷魚ヲ
切テ 杭ヲ打魚
乃チセシ 綱ナリ
設ルルノ用ニナリ

子の雛 庄院
上ノ入ニ 逆築ニ
上テテ 又 俵ニ
ヨラハ 二 林ノ
ヲ志シ ス 好
ラスシテ 林ナル
キヤ 尻 俵ニ
スヘトワ

初鴨 ありハ
▲ナレト 初鴨ト云テ
秋トナス今式ノ
成ナリ
新茗麦 古式ハ
▲ナレト 秋トナセルハ
今式ノ 賞敷ナリ
秋
七ハ本 樽ニ似テ
子 八本 樽ニ似テ

① 九月 暮月 十月 小田月

きし 陽 暮月ノ 九月ノ 暮月ノ 十月ノ 小田月ノ

林ノ 暮月ノ 九月ノ 暮月ノ 十月ノ 小田月ノ

天 後月 十月ノ 暮月ノ 十一月ノ 小田月ノ

人 細代キ 十月ノ 暮月ノ 十一月ノ 小田月ノ

食 十月ノ 暮月ノ 十一月ノ 小田月ノ

新茗麦 初鴨 仲味 新子 古式

② 新茗麦 十月ノ 暮月ノ 十一月ノ 小田月ノ

十月ノ 暮月ノ 十一月ノ 小田月ノ

十月ノ 暮月ノ 十一月ノ 小田月ノ

十月ノ 暮月ノ 十一月ノ 小田月ノ

十月ノ 暮月ノ 十一月ノ 小田月ノ

アリシトシ御ラハ所
袋三モ及ハスニテ秋
冬ノニモ子トスヘシ
不持田奏ニテ年ノ後七
ヲ虫記ニ天奏スル
云

倒懸 隆東吉田ニ
テ行ハルナリ

聖ノ宮ノ前ニ古
白皇母侍勢ノ跡
ニラナリ王ハ八世ノ中
ニテニテ海小祇ト夫
ヨリ伊勢ノ山王
ニ所ノ宮ヲ之原
林ノ宮ニスヘテ

桂文角力 玄宗旧院

以灯 心計ニ灯ヲ
七ノ半ナリ

舍利玄 泉涌ニ

...

一宮系 十
品崎系 十
津系 十
社田内系 十
...

皇服系 十
穴織系 十
...

小山系 十
...

津村系 十
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

秋首 陽ハ秋ニ
ハカハ純陰ナルコ
ハニ云

陽月 事ヲ用ルニ
無陽ヲ嫌フ故ニ
云

小春 十月ハ秋ニ
暖ニシテ冬ニ似タル
故ニ名ク小春月ハ
俗名ナリ

木ノ葉チルヲ
木ノ葉チルヲ
木ノ葉チルヲ

木ノ葉チルヲ
木ノ葉チルヲ
木ノ葉チルヲ

綿糸 七式ニ秋ト
云凡 綿ハワムト
云 棉ハ新ト云テ
今式ハ冬ナリ

垢切 下下長尺
試テノカハ細
年々ニ及ム今式
二見ハ古スヘシ

大根 凡ナリ
大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ

大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ

大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ

大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ

大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ
云 大根ハ古式ニ

節 冬 元英 上天 吉
内芳 天帝 安寧
沖方ナリノ小春月ナリ
陽月 良月

下元ナリ
小春月 何多風 山解
小春月 何多風 山解

天 小春 何多風 山解
小春月 何多風 山解

水調 枯川
水調 枯川

人 綿糸 麦荷 冬
綿糸 麦荷 冬

垢切 脰 大根 芋
垢切 脰 大根 芋

賊 短冊 巨蛇 秋ノ鳥 冬
短冊 巨蛇 秋ノ鳥 冬

網代 温石 巨蛇 湯 湯
網代 温石 巨蛇 湯 湯

大巾 湯皮 煙火 團 團
大巾 湯皮 煙火 團 團

長 系 糸 糸 糸 糸
系 糸 糸 糸 糸

切干 切干 切干 切干
切干 切干 切干 切干

切干 切干 切干 切干
切干 切干 切干 切干

●秋の味 味 清 其 秋
八九月
一字ナキニナラズ
セハ今式、加減
秋ニ 古式ハ秋ナ
レ今式ハ秋ナ

冬丸 古式ハ秋ナ
レ今式ハ秋ナ

▲レ氏今式ハ秋ナ
古式ハ秋ナ
▲レ氏今式ハ秋ナ
古式ハ秋ナ

▲レ氏今式ハ秋ナ
古式ハ秋ナ

落の菓 古式ハ

●飯汁●餅糠汁●山豆汁●毛色酒

●雲酒●玉子酒●牛と馬酒●ろろ酒

●芋味酒●カコノ酒●枝酒 霜少く梅

●美 餅をまぶさるる 冬ニ在丹

●カモフリ 茎草草 茎草草

●カモフリ 茎草草 茎草草

●カモフリ 茎草草 茎草草

●木 冬ノカモフリ 八冬の冬

●カモフリ 茎草草 茎草草

名、小枯柿 梅 桜 枇杷 菓子

●生 ●学、ノ子無竹 輪 鴨

●カモフリ 茎草草 茎草草

●カモフリ 茎草草 茎草草

●カモフリ 茎草草 茎草草

●カモフリ 茎草草 茎草草

カキ

●行 盆多き旬 一日 暖爐、今日 一日

▲春ナレ今式ハ秋ナ
古式ハ秋ナ
▲春ナレ今式ハ秋ナ
古式ハ秋ナ
▲春ナレ今式ハ秋ナ
古式ハ秋ナ
▲春ナレ今式ハ秋ナ
古式ハ秋ナ

▲春ナレ今式ハ秋ナ
古式ハ秋ナ

休鷲 古式八秋十レ

▲氏令式公系式

至るは旬々を洗老

十中ナリ 天子前

辰三出涕ナリ 水

魚ナリ 湯ナリ

燈籠命の案時地ニ

十月朔有司後

郊崇ヲ進自民間

皆公出内々後殿

舎ヲ十介ナリ

本朝三テモニ為司

炭ヲナル

秋系ノ案 公令三

坊ヲ能ラシメ

ヲ始ナ

系 系神送下 非族神心之

神心角角の案系系 下り也

法心角角の案 十あり 十あり 十あり

芭者心角角の案 十あり 十あり 十あり

命令降下する 夷降下 非族神心之

抄文掛可 心角角

一陽来復 冬至

日初テ長キ一線

十月八地雷候ハ

一陽初テ下ニ

依テ一陽ノ

十の紀 法むハ

五出ナレモ

六出ナリヨツテ

おノモシ云大和

馬車 旅人ノ

引キ又女子ナ

モ云ルモ云ル

松 三ハナシ

三ハナシモ

竹ナリトナ

松ノナリト

ナリ

郷 十月 冬至 十一月 神正月

冬 一陽来復

天 書 書 書 書

人 書 書 書 書

書 書 書 書

書 書

財 書 書 書 書

食 書 書 書 書

孝 書 書 書 書

人の部

子布あめん 師下後
 赤キ布三ツ 類ヲ
 包ミ及ニ正曲原ヲ
 廿又係ミムハラサレ
 片云古(子)板ノ國
 ノカクハラナル悲田
 寺村ノ女於ノ所
 へ出テ祀イ舞ヒ
 出テ乞テ降在ラ
 ハクニシキニ凡ナル
 トソノ関女布ト云
 シテ今ハ祀テ布
 事ムト云ナリ
 類多ク殊 昔系
 ニテモミルノお男
 女もソノ一ハ三カ所テ
 祭ヲ定ルテアリ今
 絶テナリト云
 之類 伊月ハ祀ヲ仕
 立ニシキ方ヘキス
 一ニ送ルヘキ方ヘキス

本 子布あめん 師下後 類多ク殊 昔系

生 類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

彌月ノ類
 二ハアラスアの三粒
 アリホシニ密類ニ
 テ心カ如シモホ
 表ニ細テ多クハ
 ツボホ人ノ対ニモ
 テアツフモノナリ
 其ノ多クハ 小ナリ
 候十二月ノ節
 ス

安年ノ氏 八幡山

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

類多ク殊 昔系

ハウ月種 三粒
 多レ目ノ如キ
 ウラナリテハ四斗
 アリ

大正 新の工 新の工 新の工 新の工 新の工

百韻

其ハ句 七句目 九句目

二句目 二句目 二句目

三句目 三句目 三句目

右の韻 七句目 七句目

右の韻 七句目 七句目

右の韻 七句目 七句目

右の韻 七句目 七句目

右の韻 七句目 七句目

宗道 概等のちかふらふ地へ連流もたのく

其心泊りたり一年との坐の流し流しと申ふたの死
 神新志世昔右所れぬの道流しをたつた
 越しの申ふにたりと申ふのとてさらふふと
 配ふたり

ふ字

此式古かりぬふたえん
 用物いせ何世人ふたえん

七の月	七の月	七の月	七の月
二の月	十一の月	二の月	十一の月
三の月	十二の月	三の月	十二の月

右残重いり 七の月

七の月

七の月	七の月	七の月	七の月
二の月	十一の月	二の月	十一の月
三の月	十二の月	三の月	十二の月

源氏

七の月	七の月	七の月	七の月
二の月	十一の月	二の月	十一の月
三の月	十二の月	三の月	十二の月

一ノ一

二ノ二

三ノ三

四ノ四

五ノ五

六ノ六

七ノ七

八ノ八

九ノ九

十ノ十

十一ノ十一

十二ノ十二

十三ノ十三

十四ノ十四

十五ノ十五

十六ノ十六

十七ノ十七

十八ノ十八

十九ノ十九

二十ノ二十

二十一ノ二十一

二十二ノ二十二

二十三ノ二十三

二十四ノ二十四

二十五ノ二十五

二十六ノ二十六

二十七ノ二十七

附三

一ノ一

二ノ二

三ノ三

四ノ四

五ノ五

六ノ六

七ノ七

八ノ八

九ノ九

十ノ十

十一ノ十一

十二ノ十二

十三ノ十三

十四ノ十四

十五ノ十五

十六ノ十六

十七ノ十七

十八ノ十八

十九ノ十九

二十ノ二十

二十一ノ二十一

二十二ノ二十二

二十三ノ二十三

二十四ノ二十四

二十五ノ二十五

二十六ノ二十六

二十七ノ二十七

二十八ノ二十八

二月九日

七日

二月廿一日

三月二日

経三平なりとも格のそ違[○]は[○]きりまてしは[○]社を
見く三白ありと蓮[○]た[○]二[○]のユ[○]ま[○]より[○]古[○]た[○]
おのほ[○]た[○]ふ[○]は[○]り[○]く[○]は[○]社[○]二[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
ふ[○]ふ[○]は[○]り[○]く[○]は[○]社[○]二[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
き[○]の[○]も[○]あ[○]は[○]り[○]—

い[○]の[○]社[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
し[○]—[○]廿[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
才[○]三[○]ま[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]

と[○]あ[○]り[○]—[○]廿[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
た[○]あ[○]り[○]—[○]廿[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
才[○]三[○]ま[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
定[○]た[○]あ[○]り[○]—[○]廿[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
所[○]あ[○]り[○]—[○]廿[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
西[○]結[○]帳[○]の[○]人[○]名[○]名[○]取[○]と[○]廿[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]

お[○]の[○]社[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]
お[○]の[○]社[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]

二[○]の[○]社[○]の[○]式[○]も[○]は[○]社[○]の[○]起[○]り[○]は[○]廿[○]

多ふ名ヲ名ノウシイ事ノ一也
經より至るもの如お経を抄くも神祇教
此の事ホハ是也
の端河ノシテホシイ事ノ一也
古相ノ分ル由官抄ホシイ事ノ一也
祝祭等告カレテ祭ノ事ノ一也
至る事ノ一也

白あそび

白あそび
神祇教ノ事ノ一也

神祇教
無事
居所
人倫
己

神祇教ノ事ノ一也
無事ノ事ノ一也
居所ノ事ノ一也
人倫ノ事ノ一也
己ノ事ノ一也

神祇教ノ事ノ一也
無事ノ事ノ一也
居所ノ事ノ一也
人倫ノ事ノ一也
己ノ事ノ一也

白あそび

神祇教ノ事ノ一也
無事ノ事ノ一也
居所ノ事ノ一也
人倫ノ事ノ一也
己ノ事ノ一也

水邊

生乳

物

食乳

之乳

心賦

物

時分

及物

目行

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

凡

耳名丸

延年丸

去積丸

書解丸

火解丸

物解丸

名解丸

産後丸

二白も... 子白も...

目行

目行

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

目行

目行

二白も... 子白も...

二白も... 子白も...

道字

行のくしめんの原音のよりの

とて其の物ありおるに平字を以てその
得ん一とて其の原音と以て定字を以て
あれいふ一節を以て其の如き理に
用ゆるもそのわき

連なり一和訓のいふれとも其の
二つありて其の各々其の用と
を以て其の用と其の用と
古字のいふ人倫のを以て其の

附六

言とて人倫のいふなりとて其の
人倫ありて其の言とて其の
なりとて定字を以て其の用と
なりとて其の用と其の用と
とて其の用と其の用と
自他の境を以て其の用と
其の用と其の用と
其の用と其の用と
其の用と其の用と

足おと二程の気候と云々——元あるものを送るもの
耳目の病を治すに……又かぶる上から知らるる……
けがれ物にする式の街舎と真名名の所ありて
と云ふ……
……
……
……
……
……

……
……
……
……
……

……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……

少子心

今頼

也

せんんん細頼ありしと云ふ

附る

甘ら

甘ら

甘相

甘相

甘ら

甘ら

甘直

甘直

足とハ其と云ふは、疑白、其の語を離して

其の首のふらふらと云ふは、其の語を離して

ふらふの用と云ふは、其の語を離して

其の語を離して、其の語を離して、其の語を離して

附る

其の語を離して、其の語を離して、其の語を離して

其の語を離して、其の語を離して、其の語を離して

文化四年四月

二二 13

天保十一年子四月

しんがくもろくかきさきしん
そくしんしんしんしんしんしんしん

書林

紀州若山新通三丁目

同 二丁目 総田屋平右衛門

帯屋伊兵衛

神奈川縣厚木郡相模村
川口武定

